

# こだい ちよつと むかし



あけまして、おめでとございます。  
今年も、タマおばあさんに語ってもらおう形  
で、小正月について紹介します。  
小正月というのは、一月十五日を中心とし  
た行事で、ひと昔前は、その年の豊作への願  
いを込めて、いろいろな行事が行われました。  
三が日より小正月が楽しみだった方も多  
いようです。



## 里帰り

わたしが若いころ、小正月はお嫁さんの里帰りについて、若いお嫁さんが泊まりがけで里帰りできる日だったんだよ。  
特に最初の年は実家におもちのおみやげを持っていくの。大きな四角のおもちを三枚重ねたのに半紙をのせて水引をかけるの。それから、するめやかつお節なんかをのせて。あんまり重いんで、お婿さんが背負って送っていくんだよ。うちでも兄さんがそうしてたよ。  
お嫁さんは、暮れからずっと正月の準備で忙しくて、正月になると、今度はお客さんが来るんで休めるどころじゃないの。  
だから十五日になって実家に帰ると、やっとゆつくりできたんだよ。二日か三日は泊まってこれたから、お嫁さんはみんな、小正月を心待ちにしてたんだよ。



## 成木責め

わたしが子どものころ、柿の木にはたくさん傷が付いていたの。それはね、成木責めのことなんだよ。  
うちでは小正月の日におじいさんが柿の木を棒やなたのみねで軽くたたいて、「成るか、成らぬか」とって聞くの。それから「成らぬと切るぞ」とって言って、今度はなたの刃で軽く傷を付けるの。  
そうやると柿がたくさん実をならすって、おじいさんは言ってたけど、おじいさん傷を付けたあと、そこに小豆がゆを塗り付ける家もあるんだよ。  
昔は甘いものがそんなになかったからね、ごこのう

おだんごはもう固くなっているから、焼いたり、汁に入れて煮たりして食べるんだけど、いろいろの熱い灰の中に入れて焼いたのがいちばんおいしいの。昔は灰なんか気にしないで、パッパッと払って食べたものよ。それが楽しみだね。  
うちではおしょうゆをつ



## まゆだま

昔はね、どこの家でも養蚕をやったの。それで良い繭がたくさんできまううううって、まゆだまを作ったんだよ。  
一月の十四日に、お米を石うすで粉にして、熱湯でこねるの。それを繭の形にして蒸しておだんごを作ったね、うちではみかんや、きんかんといっしょに、かしの枝にさすの。  
かしの木を使うのは、貸しができるようになっていうごろ合わせなの。  
かしの木を使うのは、貸しができるようになっていうごろ合わせなの。  
かしの木を使うのは、貸しができるようになっていうごろ合わせなの。



タマおばあさんのお話、いかがでしたか？  
ご感想を小平民話の会  
(高津 ☎042(343)6077) または広報  
広聴課まで、どうぞお  
寄せください。



女日待ちを  
おしら講って  
呼ぶ人もいた  
ね。わたしが  
大人になった  
ころは女日待  
ちもやらなく  
なっていたの。

小正月には農家は仕事を休んだの。  
その日に女日待ちっていいね、女だけの集まりがあったの。昔は今みたいに女が遊びに行くなんてできなかったから、一年に一度の楽しみだったんだよ。  
毎年、集まる家は順番で、わたしが子どものころ、うちが当番になったことがあったの。近所のお母さんたちが大勢来て、みんなでごちそうを食べたりおしゃべりをして、それはにぎやかだったよ。ごちそうっていつても、煮物やうどん、お汁粉なんかだけだね。それから「ほっぴき」というくじ引きをするの。ひもの先に当たりのを付けていて、みんなで引くの。そのうちのところでは女日待ちち屋間やったけど、夜やるところもあつたって聞いたよ。  
女日待ちをおしら講って呼ぶ人もいたね。わたしが大人になったころは女日待ちもやらなくなっていたの。  
この日は夕方になると、寒いのに兄さんや姉さんといっしょに通るまで出て母親を待ったの。父親に「かせをひくから家に入れ」と言われても、外で待っていたの。  
うちのころでは女日待ちち屋間やったけど、夜やるところもあつたって聞いたよ。  
女日待ちをおしら講って呼ぶ人もいたね。わたしが大人になったころは女日待ちもやらなくなっていたの。

## 女日待ち